

# サロン 登美ヶ丘茶論(6)



また増えたモリカケ桜黒川も

政権の嫌いな色は透明色

トランプを平和賞にと推した安倍(ひと)

黒川の手帳に書いた雀仲間

検察は司法じゃないと言われても

A B の二択で C という総理

「 2020年6月

## ◆ 安倍首相の抗体が欲しい!

プロレスラーの木村花さんが急死した。(といっても、私は最近のプロレスに全く興味がないので、初めて聞いた名だが)。

なんでも、SNS (これも知らなかった) とやらで誹謗中傷に耐えられずに自殺したようです。悩みに悩んで死を選んだ人には酷な言い方になるが、身体と筋肉は強かったが、心はそれほど強くなかったようです。

それに引き換え安倍首相の何という心と体の強さ! 二度目の首相就任以降でも、秘密保護法、戦争法の制定や森友学園問題での公文書改竄や、今回の「桜」疑惑告発阻止のための黒川検事総長実現のための策謀、その他数々の悪行を歴史書に書こうとすれば、「南山の竹を伐り尽くしても書ききれない」ですが、数々の真実と倫理と法理に基づく批判・指揮・糾弾にも動ぜず、首相の座に居続けている。

何と罵られようと、何と誹謗中傷 (ではなく、事実に基づく批判なのだが) されても、一向にこたえていないし、どうも三密の会合を続けているようなのに、コロナ・ウィルスにも感染していないのか、少なくとも発症していない。すごい万能の抗体を持っているのでしょうか。私は安倍晋三首相の抗体が欲しいと思っています。(Mさん)



## ◆ 贅沢をしよう、贅沢は素敵だ!

白井聡さんの「武器としての『資本論』」を読みました。そして、これだ! 出来れば実践しよう! と思ったのは、『私たちはもっと贅沢を享受していいのだ』と確信することです、というくだりです。ここを丁寧に説明しようとするすると3000字くらい必要と思いますので、説明はしません(要は、自分で自分の生活水準を切り下げるのは資本の思うつぼ、ということ)。

それで、古いスローガンを思い出して、「贅沢は素敵だ!」というポスターのようなものを作って、リビングの壁に貼りました。

でも実践できるかなー? 牛ステーキ肉を買うつもりでスーパーに行っても、鶏肉で済ませてしまいそう。でも、せめて月一はビーフ・ステーキを食おう——。(Sさん)

調査機関	調査期間	支持率 (%)	不支持率 (%)
朝日	5/23-24	29%	52%
	5/16-17	33%	47%
	4月	41%	41%
NHK	5/15-17	37%	45%
	4月	39%	38%
ANN	5/16-17	32.8%	48.5%
	3月	39.8%	38.6%
毎日	5/23	27%	64%
	5/6	40%	45%
時事通信	6/1	38.1%	61.3%
	3月	39.3%	38.8%
日経	6/7	38%	51%
	5月	49%	42%
JNN	6/6-7	39.1%	59.2%
	5月	41.1%	50.8%

朝日	5/23-24	コロナ対応評価	30%	不評価	57%
時事通信	6/1		37.4%		60%
時事通信	6/1	緊急事態条項憲法書き込み	賛成 41.9%	反対	54.9%





憲法を一人のために変える国

後手後手の総理悪法だけ急ぎ

法解釈どうにでもなると内閣府

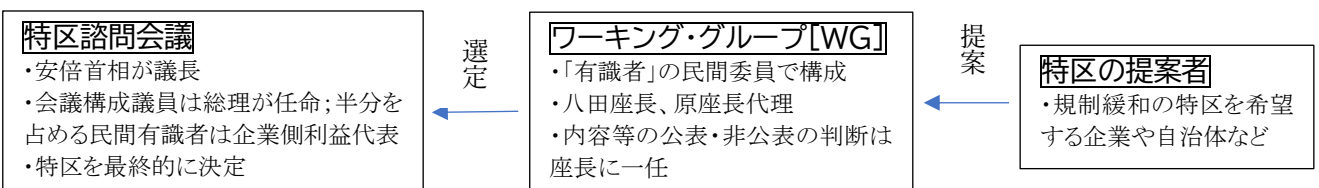
### ◆ 「国家戦略特区」というカラクリは壊憲への一里塚！

5/27 コロナのドサクサに紛れて国民に広く知られないままに、自・公・維新の賛成多数でスーパーシティ法（国家戦略特区法改定案）が成立した。国・自治体・企業で構成する「区域会議」がAI等最先端技術（監視カメラ、顔認証、生体認証技術、位置情報、マイ・ナンバー等々）を利用して住民の日常のあらゆる行動記録・生活情報（医療、教育、移動、資産、等々）を一元管理する「特区」を作る。国と企業とがそれぞれの思惑から利益・利権を共有・支配する超監視・管理社会を構築する実験場であり、結局、住民無視で、憲法の基本的人権を保障しない壊憲・無法地帯の構築だ。

そもそも「国家戦略特区」が始まったのは2012年末第2次安倍内閣成立以後。2013年秋「産業競争力強化」法とそれと抱き合わせで「国家戦略特区」法を強行。狙いの中心は、雇用、医療、介護、農業などの「岩盤」規制撤廃。それ以来アベ首相のトップダウンで包括的な規制緩和路線を突っ走って来た。例えば、首切り・解雇特区、混合診療特区、等々。具体的には、東京お台場カジノ特区、公設民営学校特区、保育最低基準撤廃特区、農地特区、英語特区…等々。2018年の外国人労働者受け入れビジネスの「入管法改正案」や自治体の水道事業への民間企業参入の「水道法改正案」の二つの悪法に共通する竹中利権も同じ構図だった。

特区諮問会議であれ「有識者」会議であれ、提案者筋が選定・決定に関与するなんて！

国家戦略特区選定の手順（「毎日」19/7/7付「特区に疑義再燃—中立性は？透明性は？」を参照した）：



特区諮問会議構成メンバーの典型が元慶大教授兼人材派遣会社パソナ会長竹中平蔵氏（アベノ特区を作るべし、岩盤規制を打破すべし、労働者保護法制を変えよ、が持論）。WG座長は八田達夫大阪大招聘教授（特区法審議の時の参考人として「画期的な法だ」と自画自賛した人）。

諮問会議は「提案者を守るため、本音で話すため」非公表；民間委員と特区提案・希望者間との利害関係には制限基準はない—建前はともかく、これまで公式、非公式、臨機応変、自由自在に接触が可能だった；提案内容、提案者等公表は座長の胸三寸。要するに、選定の公平性・中立性を保障する客観的基準はない。「選定にはいろんなパターンがある」（内閣府蓮井参事官）とうそぶく有り様。結局トップ・ダウンで王様の意向を貫徹する仕組みのようだ。その典型が加計学園の決定過程だった。森友も勿論同じ構図。映画「新聞記者」が画いて見せた「内閣府」のように正に伏魔殿の様相。

白井聡（政治学者・京都精華大）氏は、「安倍政権は犯罪者集団レヴェル」だと指摘しているが、この集団のこの先の狙いは、各種特区を総合して全国区へ広げて国家改造？何しろ竹中平蔵氏が2018年自分が座長を務める「有識者」懇談会で、スーパーシティでは「国・自治体・企業で構成する『三二独立政府』を運営主体とすべきだ」、と主張しているのだから、全国区へ向けた突破口がスーパーシティ法、という位置づけか。都構想の大阪が早手を挙げる！？（Wさん）

「茶論」への御投稿をお待ちしています。日頃思うこと、感じること等どんな話題でも結構です。気軽に御投稿ください。掲載時、投稿者は匿名扱いとします。

原稿は以下の世話人ポストへ放り込んでください：石田(松陽台 2-16-4 ☎46-0352)、赤沢(鳥見 2-5-1)、秋山(東登美 4-22-19)、藤田(西登美 4-17-4)、堀江(西登美 1-20-7)、宮田(鶴舞西 2-10-C505)、初谷(中登美 4-1 ローレル I-7-204)、森本(西登美 1-22-21)

登美ヶ丘九条の会



得意技どさくさごり押し多数決

安倍総理詰んでいるのに指し続け

この際に廃止政党助成金